

教育研究業績書

日付 2026年2月20日

氏名 蟹瀬 誠一

研究分野	研究内容のキーワード
人文社会系政治・経済・経営学並びに総合系情報学とメディア	経営学、国際関係論、デジタル情報学

授業・教育向け業績

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	PRJ該当	招待論文該当	概要
「メディアは平和創造に貢献できるか」	単著	2021年5月	法律文化社		○	ビジネスの本分は偉大な社会の創造に参加することだ。偉大な社会とは人々が恐怖に苛まれず豊かに暮らせる社会のことである。そのためにはビジネス界も平和創造に寄与することが必要だ。とりわけ爆発的にデジタル情報産業が成長する中で人々に必要かつ正確な情報を提供するメディアの役割は大きい。
「トランプ現象は熱病だったのか」	単著	2021年5月	外交政策センター		○	20世紀に入ってからの米国政治には理想主義と現実主義が交互に台頭する30年周期があり、経済的には市場主義に対する不信と信頼が周期として現れる。私的利益を追求する現実主義のサイクルに登場したトランプ政権の影響で企業も公共の利益よりも私的利益を追求する弛緩した時代に入った。
「世界平和が担保されない現実～ダボス会議とウクライナ戦争」	単著	2023年1月	『北國新聞』（北國新聞社）			経営者は株主や顧客だけでなくすべての利害関係者に配慮すべきという理念で創設されたダボス会議が大転換期を迎えている。グローバリズムを深めても格差が拡大し世界平和は担保されない現実をつくつけられているからだ。これからの経営者はどんな視座に立つべきかを考察。

学術理論的研究業績

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	PRJ該当	招待論文該当	概要
「バイデン時代の地政学と日本」	単著	2022年7月	(社) 価値創造フォーラム21			米国の対中経済制裁、コロナパンデミック、ウクライナ戦争などによるグローバル・サプライチェーンの寸断で、多くの物資、とくに半導体の不足が企業経営に大きな影を落としている。世界最重要テクノロジーを巡る国家間の攻防はダイレクトに企業経営に影響を与える。要となるバイデン米政権の施策から経営リスクを分析する。

実務的業績

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	PRJ該当	招待論文該当	概要
「習近平の野望」	単著	2023年1月	『時局』（時局社）			強権的政治を推し進める中国の習近平主席の思考と戦略の裏に隠された世界制覇の野望と今後の中国の先行きを展望。
「政情不安が一掃されないタイ総選挙」	単著	2023年5月	『時局』（時局社）			微笑みの国として知られるタイ王国で行われた政権交代を賭けた下院選挙結果で浮き彫りになった同国の政治的分断、激しい貧富の格差、王室の凋落を分析。
「一筋縄でいかぬトランプ訴訟の行方」	単著	2023年6月	『時局』（時局社）			米国史上初めて起訴された前大統領ドナルド・トランプの衝撃的な起訴状の内容を分析。それでもなお減らないトランプ支持が象徴する米国の分断の深刻さを解説。
「イスラエル・ハマス戦争のゆくえ」	単著	2023年11月	『北國新聞』（北國新聞社）			イスラム武装勢力ハマスがイスラエルに大規模奇襲攻撃を敢行したことからはじまったイスラエルとハマスや周辺のアラブ諸国との血で血を洗う争いの政治的、歴史的背景を分析・解説。
「異例な展開となった米大統領選挙」	単著	2024年2月	『北國新聞』（北國新聞社）			虚言、暴言、妄言で世界秩序を揺るがせた挙句に刑事被告となったトランプ前大統領と高齢の現職バイデン大統領の対決となった2024年大統領選の異例さの背景と共にトランプ再選の可能性と問題を分析。
「ウクライナ戦争の終わらせ方」	単著	2024年3月	『時局』（時局社）			これまでの主な戦争の歴史を振り返りながら、ウクライナ戦争の先行きを分析。ロシアのプーチン大統領やアメリカのバイデン大統領の思惑や欧州の動きを解説。地政学の重鎮ヘンリー・キンゼンジャーの考え方も分析。
「忘れられた戦争～ミャンマー内戦」	単著	2024年5月	『時局』（時局社）			世界の関心が中東やウクライナでの戦争に集まる中、日本と馴染み深いアジアの仏教大国で起きている血みどろの内戦の現状とその背景を分析。「これは忘れられた戦争であり、人道に対する組織的犯罪」ということを明らかにした。
「欧州全体で力を増し始めた危険な極右勢力」	単著	2024年6月	『時局』（時局社）			世界各地で顕著になってきた独裁体制や極右の台頭を欧州の議会選挙結果を中心に分析。その背景にある移民・難民の流入、貧富の格差、ウクライナ戦争によるエネルギー危機などを詳らかにした。

「米大統領選のゆくえ」	単独	2024年7月	バリクラブ			アメリカ大統領のゆくえと欧州情勢を分析した内容の講演。
「トランプ暗殺未遂の衝撃」	単著	2024年7月	『時局』（時局社）			世界に衝撃が走ったトランプ暗殺未遂をきっかけにアメリカにおける大統領暗殺・暗殺未遂の影響とその歴史を分析。さらに暗殺未遂事件が流血の議会議事堂事件を扇動したトランプが一夜にして被害者にすり替えたメディアの実情も考察。
「米大統領選の課題と展望」	単独	2024年10月	世田谷ポートランド文化交流協会			アメリカ大統領選に見る今後の課題と展望を元米国通商代表補代理グレン・フクシマ氏と講演・対談。
「再びトランプワールドで世界はどうなる」	単著	2025年1月	『時局』（時局社）			第二次トランプ政権が第一次政権とどう違うのかを分析。さらにテスラや宇宙ビジネススペースXなどの創設者で大富豪のイーロン・マスクがどのような思惑を抱きながらトランプ政権に参画したかを考察。
「世界情勢の潮流を読む」	単独	2025年1月	一宮商工会議所主催講演			第二次トランプ政権の政策、ならびにウクライナ戦争とその背景の分析
「変化を乗り越える経営者の決断力」	単独	2025年2月	(株)ジャックパ特別講演			激動する世界情勢を分析するとともに経営者が必要とする思考や戦略を歴史的視点から解説
「白人キリスト教民族主義の台頭」	単著	2025年2月	『時局』（時局社）			米国大統領に返り咲いたドナルド・トランプは何かにより悪かれたように次々と大統領令や奇抜な政策をくりだして世界を翻弄している。その背景にある危険な白人キリスト教民族主義を詳らかにした考察。
「トランプ2.0に日本はどう対応するのか？」	単独	2025年4月	NPO法人外交政策センター			再選されたトランプ米大統領の政策とその裏で蠢く政治集団を詳らかにし、日本としてトランプ政権にどう対応すべきかのオプションを提言した。
「激変する時代の経営者の決断力」	単独	2025年5月	マニュライフ生命保険(株)			パラダイムシフトが起きている現代、経営者は何を考えどのような決断と行動が必要なのか。地政学的変化を解説すると共に企業としての対応を解説した。
「ドナルド・トランプの真実」	単独	2025年5月	(株)かんぼ生命保険			世界を混乱の渦に巻き込んだトランプ米大統領はいかなる人物かをこれまでの長期取材をもとに明らかにした講演。トランプの本質を知ることによって常軌を逸したアメリカ大統領の現代マキャベリズム思考法を解き明かした。
「イラン攻撃に踏み切った米大統領の短絡思考」	単著	2025年6月	『時局』（時局社）			米国をイラクやアフガニスタンの泥沼に落とし入れたような「愚かな」戦争には関与しないと公言していたトランプ大統領が何故イラン直接攻撃に打って出たのか。その背景を分析した論考。
「激変する世界情勢とトランプ政権の狙い」	単独	2025年7月	日本ペーリンガーインゲルハイム(株)			傍若無人なトランプ大統領の素顔と政策を通して、世界情勢がどのように変化していくのかを解説。製薬業界にどのような影響を与えるかを分析した講演。
「パラダイムシフトの時代を読み解く」	単独	2025年7月	名古屋銀行協会			第二次トランプ政権が世界経済、とくに金融にどのような影響を与えるか。その影響に日本はどのように対応していくべきかを解説した講演。
「激動する世界を読み解く～これからの日米関係」	単独	2025年7月	岐阜中金会			地政学的変化やトランプ政権の政策によって、これからの日米関係はどのように変化していくのか、日本は今後アメリカ一辺倒でなく周辺諸国と戦略的互惠関係をどのように構築していくかを解説した講演。
「ドナルド・トランプの真実を語りつくす」	単独	2025年8月	ダイヤモンド経営者倶楽部関西サロン			虚言、妄言、暴言が数限りないドナルド・トランプがなぜ世界最強のアメリカ大統領に一度ならず二度も選ばれたのか。彼の言動の裏にあるワルのリーダーシップの本質とその背景になるアメリカ社会の病理を解き明かした講演。
「狡猾なプーチンと小物トランプ」	単著	2025年10月	『時局』（時局社）			ウクライナを攻撃すればモスクワを徹底的に爆撃すると豪語していたトランプ米大統領は、戦争犯罪容疑で国際裁判所から逮捕状が出ているロシアのプーチン大統領をレッドカーペットで迎えた。トランプはなぜロシア外交に弱いのか。その裏を解き明かした論考。
「激変する世界情勢を読み解く地政学とトランプ」	単独	2025年11月	伊藤忠商事(株)			トランプ米大統領の再選によってさらに混迷を深める世界情勢について解説。とくに欧米・中国・ロシアの動きや為替動向、住宅・建築需要などについて深く考察した講演。
「残された顧客リストは何を明らかにするのか」	単独	2025年11月	『時局』（時局社）			少女らの性的人身取引罪などで起訴され自殺した米富豪ジェフリー・エプスタインの事件は、欧米の政財界の有力者や王室まで巻き込み、世界に衝撃を与えている。公開された捜査資料によってトランプ米大統領の名前も明らかになった。個人的にエプスタインの顧客リストを入手し、事件の真相に迫る論考。